

自然・環境グループ

自然・環境グループの質問を始めます。

私たちのグループは、県議会に関することや、緑化の推進、ポイ捨てごみの削減に向けた取り組みなどについて話しました。

このことについて3つの質問をします。

質問1 議員の広島への思いについて

広島には、原爆ドームや宮島などのさまざまな名所がありますが、皆さんは広島のだどのようなところが好きですか。また、その理由を教えてください。

そして、広島で議員をする上で、うれしかったことは何ですか。

答弁（児玉副議長）

1点目は、広島のだどのようなところが好きですかという質問だったと思いますが、御指摘のとおり、原爆ドームや宮島などの世界遺産、名所も誇れる広島県の財産であると思います。

ただ一方で、広島県は都市部から中山間地域まで非常にエリアが広いというふうにも思っております。よく例えられるのが、海水浴からスキーまでできる県であるとも言われますし、農産物で例えると、リンゴからミカンまでとれる地域であるとも言われております。そうした多様性に非常に富んでいるというのが、広島県の魅力であるのではないかと思います。海が好きな人は海に行き遊ぶこともできる、山が好きな人は山に行き遊ぶこともできる、こういったすばらしい地域であると思います。

また、神楽や祭りなど、伝統文化等も多く楽しめますし、スポーツの好きな人は広島東洋カープ、サンフレッチェなどプロスポーツもたくさんあって、盛んであります。

他の県から見ると、いろいろな楽しみ方ができるのが広島県であると思っておりますし、これが好きなところであり、魅力であると思っております。

次に、議員をする上でどのような思いで臨んでいるかということでございますが、当然、我々は、地域の代表として、64名の議員がこの議場に集まっております。そうした上で、地域の要望にいかに対応していくか、非常に大事なことだと思います。いかに地域の皆さんとコミュニケーションをとりながら、いろいろな情報や困りごと

を聞いていくか、これは議員にとって最も必要なことであると心がけております。

また、そうした情報をいただくことによって、議員で条例をみずからつくっていくといった活動も、県議会のほうで行っております。このような条例をつくることによって、より、その要望をかなえるための地域の活動ができるのではないかと考えております。

また、広島県が、結果的には外からどのような評価を受けるか、広島県はいいところだと思われる広島県をつくっていく、これが最大の目標ではないかと考えております。

全国の移住地希望ランキングというものが示されております。このランキングでは、広島県は平成26年には全国18位と、割と下のほうにいたのですが、平成28年、平成29年と全国で4位、そして、去年は全国で6位というふうに、今は上位に名前を連ねるというような県になっております。

今後とも、知事初め、県執行部と県議会で議論を重ねながら、誇れる広島県を目指して、今後とも取り組んでまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

質問2 子供が企画する緑化イベントについて

来年3月から、第37回全国都市緑化ひろしまフェア「ひろしま はなのわ 2020」が開催されます。このフェアは、緑の大切さを理解し、緑がもたらす豊かなまちづくりを進めるために開催される祭典です。

このような大きなイベントがあると、県民が都市の緑化に関心を持ち、きれいなまちづくりに取り組む動きも出てくると思うのですが、イベントが終わってしまうと、盛り上がった雰囲気も忘れられてしまうのではないかと心配です。

そこで、提案です。

せっかく盛り上がった雰囲気をそのときだけのものにしないよう、まちの緑をふやすためのイベントを子供たちが企画して、毎年、続けてはどうでしょうか。

例えば、「種から育てよう ひろしま 緑の輪」として、子供たちが中心となり、学校などで土づくりから始めて、種を植え、花の苗を育てます。育てた苗は、町内会やボランティアに協力してもらって、歩道や公園、公共施設の花壇などに植え、水まきなどの世話をし、まちじゅうを緑と花でいっぱいにします。ふやした種は、他の学校や保育園、社会福祉施設などに育てていただき、活動の輪を広げます。第1回目の花はほかのイベントから、第2回目からは学校などで育てていただいた花の種を利用しよ

うと思います。

私たち子供自身が企画することで、小さな子供や高齢の方、障害のある方にも参加していただくことができ、参加者同士のふれあいやコミュニケーションの場にもなるのではないのでしょうか。こうした活動が、笑顔の交流や、愛着のある地域づくりの輪に広がり、緑も心も豊かな広島になっていけばいいと思います。

答弁（都市建築技術審議官）

第37回全国都市緑化ひろしまフェアは、県と県内23市町が中心となり、令和2年3月から県内一円での開催を目指して、現在、メイン会場や協賛会場などの整備や、県内全域でのスポットイベントの準備などを進めているところでございます。

このひろしまフェアでは、地域づくりの担い手の育成を目的の一つとし、小中学生の皆さんを初め、幅広い年代の方や障害のある方にも活動できる場面をつくり、花や緑の大切さを多くの人と分かち合い、地域を誇りに思い活動できる人の増加を図ることとしています。

このため、メイン会場や協賛会場では、植物の管理をするボランティアのほか、花苗の育成や植え付け、花壇のデザイン作成などさまざまな活動メニューを用意し、みんなでつくり上げるフェアとなるよう気運を高めていきます。

今回御提案いただいたように、次世代の担い手でもある小中学生の皆さんが企画された取り組みは、街の緑と花をふやすとともに、地域への愛着を促す効果が期待できるものと考えております。

県といたしましては、ひろしまフェア期間中に県内各地で開催される160余りのスポットイベントは、ひろしまフェア終了後も継続して行われるイベントが多いため、今回いただいた提案をイベント主催者に伝えるとともに、市町と連携して、花や緑で豊かな地域づくりの輪が広がるよう取り組んでまいります。

質問3 ポイ捨てごみの削減について

ペットボトルやレジ袋などが、公園や道路、川の土手などにたくさん落ちているのを見ます。そうしたごみは、川から海に流れ込んで、海洋プラスチックごみとなります。自然に分解されない海洋プラスチックによる環境汚染が、今、大きな問題となっています。

平成28年度の環境省の漂着ごみの調査では、プラスチックの割合が、容積で約48%、

個数で約66%を占めており、プラスチックの中では、飲料用ボトルの個数が約39%で一番多くなっていました。このような状況の中、国は、ことし5月に海洋プラスチックごみ対策アクションプランを策定し、清涼飲料団体によるペットボトル100%有効利用を目指し、専用リサイクルボックスを設置する取り組みなどを支援するとされています。

PETボトルリサイクル推進協議会の調べでは、平成29年に販売された飲料用ペットボトル58万7,351トンのうち、回収されていないペットボトルは年間4万6,103トンで、東京ドーム1.4個分にもなる膨大な量です。ペットボトルの100%有効利用を実現するためには、ポイ捨てさせずに、きちんと回収しなければなりません。

そこで、わたしたちは、ビール瓶を回収すると保証金が戻ってくる仕組みを参考にしました。

そこで、提案です。

飲み終えたペットボトルを回収機に入れると、スマホに買い物で使えるポイントがつく仕組みをつくってみてはどうでしょうか。スーパーやコンビニの店内、自販機の横など、まちじゅうに設置すれば、ペットボトルのポイ捨てがなくなるのではないのでしょうか。回収機の設置は、製造業者・販売業者だけでは負担が大きいため、国や県が支援してはどうでしょうか。

こうした取り組みにより、ペットボトルの100%有効利用に近づくのではないかと思います。うまくいけば広島から全国に広げ、さらには世界中に広がることで、海洋プラスチックごみの問題が少しでも改善すればよいと思います。

答弁（環境県民局長）

ポイ捨てされたペットボトルやレジ袋などのごみは、海洋プラスチックごみが発生する要因の一つになっていると考えられ、ごみのポイ捨てを防止することは、海洋プラスチックごみの削減が大いに期待できるものと考えています。

これまで、県や市町では、ポイ捨てを防止するための定期的な見回りや、ポスターを活用したポイ捨て防止の呼びかけを行っているほか、ごみそのものを削減する取り組みとして、水筒を持参するマイボトル運動や買い物袋を持参するマイバック運動といった取り組みを進めています。

また、回収されずに海に流れ込んでしまったペットボトルなどのごみについては、毎年7月の海水浴シーズン前に地域の住民団体の方々の御協力をいただき、海岸を一斉に清掃する取り組みを進めているところです。

皆さんから提案のありました、ポイントがつくペットボトル回収機の設置については、大手スーパーやコンビニにおいて首都圏を中心に試験的に進められており、ペットボトルのポイ捨て削減に効果が期待できると考えます。

本県といたしましては、ペットボトルの回収機の設置を行っているスーパーなどの業界団体に働きかけを行い、県内での設置が実現するよう、事業者や市町と協力しながら、取り組みを進めていきます。